総合的な学習の時間
「わたしよし　きみよし　みなもよし」

川崎市立長尾小学校

単元（題材）目標

○自分たちの身の回りには、様々な立場の方が多く生活していることに気がつき、地域に暮らす方々との関わりを通して、自分自身の在り方、生き方を見つめ直し、他者とどのように関わっていくかを考えて生活しようとする。

○探究活動Ｉで、視覚、聴覚、身体障がい者の方々の日常の生活の楽しさや、日々どのようなことを感じて生活しているのか、パラスポーツがどのような性質をもっているスポーツであるのかを知り、誰でも幸せに生活できる社会の大切さに迫っていく。

（１）実施時期

令和元年 11 月 21 日(木)

（２）対象（学年等・人数）

第４学年　２学級　計 48 名

（３）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：第４学年担任２名

外部講師：手話サークル山びこ　６名（ろう者…２名　健聴者…４名）

（４）実施内容

○聴覚障がい者の生活、コミュニケーションの図り方について（学年全体）

学年全体で聾者の方から話を聞く（手話通訳あり）

◇日常でどのようなことや方法で情報を獲得しているのか

◇ろう者の生活について

・聞こえなくなった時期やどのようにして手話を学習してきたのか

・日常で困ってしまう場面（寸劇…子どもたちにサポートの仕方を実践してもらう）

○福祉機器の説明

◇視覚的情報機器について紹介

○手話体験

◇各学級に聴覚障がい者１名、健聴者２名入っていただく。

◇日常表現（あいさつ）　　◇各教科の表現方法（４年時に学習する全教科）

◇簡単な会話を実践

（「算数が好きですか？」「私は算数が好きです」一人ひとりとコミュニケーションをとる）

（５）成果

○日常生活で気を付けなければいけない部分はあるが、誰でも、自分の生活の中で自分の幸せを見つけ、研鑽し生きていることに気づくことができた。

○聴覚障がい者の日常について知ったり、手話は聴覚障がい者とのコミュニケーションを図る手段の一つであったりすることを知ることができた。

○手話の楽しさを知り、子どもたちから「時間割を手話で伝えてほしい」「さようならを手話でやろう」と、自分たちの生活にも取り入れていた。

（６）その他

○「障がい者の生活は大変だ」という思いにとどまることがないよう、誰もが幸せに生活できる環境、人間関係、相手のことを理解する大切さに焦点を当てて単元を進めた。

○一人ひとりの生活の仕方が違っていることから、その人の立場・視点に立って考えることの必要性について理解を深められたように感じている。